

第 90 回 関西スペイン語教授法ワークショップ実施報告

日時：2015 年 7 月 4 日(土) 10：30－12：30

場所：関西学院大学 梅田キャンパス 1005 教室

テーマ 1

日本の大学におけるスペイン語教育の制度的条件と環境(4) － 制度の変遷

担当者：江澤 照美 使用言語：日本語

教師には制度そのものは変えられない、しかし、制度は変わりうる。ということで、日本の大学の制度や環境の歴史の変遷（20 世紀後半から現在、将来の展望に至るまで）を今回取り上げた。この種のテーマを扱う場合、まず日本における教育の変遷という大きな流れを捉え、そののちに個別の問題を扱う、という順序立てが必要であると担当者は考えた。そのため、今回のワークショップでは、担当者が実際に経験している 20 世紀後半以降の日本の外国語教育から話を始めた。

制度の検証をする前に、日本の外国語教育の変遷を、21 世紀の教育モデルとしてソーシャルネットワークワーキングアプローチ(SNA)を提唱している當作靖彦氏の分析をもとに概観した。そのあと、日本の大学教育制度の変遷（入試制度の多様化、学内組織やカリキュラム再編成、社会・地域連携など）や「グローバル人材」育成を意識した改革によって生じる新しい取り組みの例、今後の動きについて紹介した。

最後に、上記で述べた制度の変遷と今後の流れを踏まえたうえで、スペイン語教育の課題として ① スペイン語学習の意義・目的 ② 他者との連携や異文化対応 ③ スペイン語の普及や文化紹介 をあらためて問い直した。

スペイン語教育に関わる問題を討論するための時間があまり取れなかったが、近年の大学の制度変遷についての情報共有はある程度できたのではないかと思う。今回のテーマは、専任教員のほうが実感するところが多いはずで具体的なコメントをいただいたが、非常勤講師であっても特に外国語教育に力を入れている勤務校の動向が垣間見えてくるのではないだろうか。テーマが大きすぎて前半の話に時間がかかりすぎ、参加者の意見を伺う時間が十分残っていなかったのが心残りである。